

平成21年度第2回 芦屋市立美術博物館協議会 議事録

日時	平成21年6月30日(火) 14:00~16:00
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	会長 神木哲男 副会長 西山 厚 委員 秋山道廣 委員 林 哲也 委員 川口研司 委員 中田伊都子 委員 成田直美 委員 山内修身 委員 戸田清子 欠席委員 大江紀子 事務局 藤原教育長 橋本社会教育部長(美術博物館副館長) 川崎美術博物館主査 芦屋ミュージアム・マネジメント 職員2人
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開

1 議題

芦屋市立美術博物館の運営基本方針の改正について

2 審議内容

上記の議題について、各委員より提案・補足説明及び事務局から提案があった。

[主な質疑内容]

(会長) 『(1) 芦屋市立美術博物館の運営基本方針の改正について』を議題とします。

この資料1にそって、委員の皆様からご意見、ご提案についてのコメントがあれば、お願いしたいと思います。

では、林委員よりお願いします。

(林委員) 補足だが、美術博物館の特性である具体美術・抽象作品について、現在の運営基本方針は相当手厳しく指摘しているが、私としては、活用しないのはむしろマイナスだと思う。基本方針の表現を変えてほしい。

基本方針が定められて以降、美術博物館の運営がどうだったか、問いたい。市民に親しまれる美術博物館として運営できたのか、見直しをしていきたい。

予算が厳しい中で、お客さん、市民に来てもらうのは困難。地元の身近な作家に協力を要請するというのを、もう少し工夫努力してほしい。あるいは収蔵品の交流ができないか。

入場料300円で良い展示をするのはムリがある。学校教育については非常にうまくいっていると思うが、生涯学習ネット等との連携を考えてほしい。美術を愛好する市民・団体に対しても働きかけてほしい。こういう方たちに対してのきめ細かなPR活動・資料作成が必要では。

(成田委員) 一般的な主婦の意見として、市外の方にも足を運んでもらわないと。「芦屋ぶらぶらマップ」を小中学生にも配布してほしい。配布をすれば、春休み・夏休みに利用してもらえないか。

(山内委員) 具体美術協会が、以前は松浜公園で屋外展示をしていた。確かに、パフォーマンスを含めて一般市民が見てスッキリしないとの意見を数多く聞く。個人的な意見だが、少数派ではないか。ただ、排除すべきではない。継続していく必要があるとは考える。

現在の財政状況から、以前は美術品の購入基金というのを設けて、いい作品が出たときには、その基金を活用して自由にお買っていた時代があった。

今は、当面は、市民の持っておられる作品その他を、寄託・寄贈してもらう方法を続けていくしかない。こんな厳しい中では、逆に学芸員の腕の見せ所では。それぞれが、頑張っていくしかない。

広報活動は美術博物館の運営にとって大事なことであり、市にとっても大事なことである。市役所には、記者クラブというテレビも含めて、記者が詰めているところがある。常にそういったところに情報提供をすることによって、無料でPRしてもらえる。

それから、芦屋市の文化行政推進懇話会がつくられ、提言がなされているが、このことは美術博物館協議会でも認識しておく必要があるのではないか。

(西山委員) せっかくなので、美術博物館の根本方針をつくるべき。全面的に直すほうが良いのではないか。

「美術博物館」であることを再確認してほしい。美術部門・歴史部門の双方大事にした運営をしていくことが大事。

プラス面の文章のある基本方針にしてほしい。

芦屋のどこが素晴らしいのかという出発から運営基本方針を書くべき。

芦屋市民としての感動・誇りを感じられるような場であってほしい。

震災後に増えた寄贈・寄託をもっと積極的に活用してほしい。

広報をもっと積極的にしてほしい。

芦屋市の小中学生が年1回でも来る仕組みを作れないだろうか。これは芦屋市が積極的に応援してほしい。

少しでもプラスになることは、なんでもする姿勢が大事。

今後様々なイベントをやって、様々な人がやってくるように。芦屋市が全面的に支援するのだと強い気持ちをもってほしい。

紀要創刊号とても良い。すごく優秀な人材が沢山いると思った。ワークショップもとても素晴らしい。

具体についても、プラス面を書いてほしい。良いところをもっと大事に、応援もするべき。

(会長) 本日、3人の方にも案を出していただいています。まず秋山委員どうぞ。

(秋山委員) 美術博物館のワークショップは全国的にみても非常に価値のあるもの。一歩先を行っていたのではないか。これは自信を持って前に出していくべき。美術博物館は、図工関係者の中ではよく知られている。

これは一番の基礎になっていかないといけないものではないか。基本的な考えとして、これからの子どもたちが大きくなっていく上で、私たち大人は種をまいてやる事をしないと。これからの未来、どういうものが子どもたちにとって大事なのか、基本方針に盛り込んでほしい。

数値や金銭的に表れないものを、何かしらの文章に入れていくことは大事ではないか。

(戸田委員) 郷土資料が豊富にある。美術館・博物館は地域文化の「核」であるので、地域との交流が大事だ。若い方、特に大学との連携してほしい。良さをもっと発信できないか。具体的には、学生のグループとか学生のボランティア組織のアート系とか歴史学の同好会とか若い人たちと協力して何かできないか。歴史を掘り起こしていくことが大事。色んな可能性がある。

展示の工夫について、1人の作家でも、年代ごとに作風が変遷している。これを見ることができたらと思う。

アートには読み解く楽しさがある。特に昨今は阪神間のシュールレアリズムなどの展覧会が多いように思う。現代アートに関する出版物も沢山増えているので、一時期よりはこういう絵画を見て興味を持つ人々も増えているように感じる。

以前に阪神間モダニズムの展覧会をしているが、芦屋のモダニズムというのは、人々の関心を呼ぶのでは。

芦屋の文化の奥行きの高さを大事にしていけるような仕組みを作してほしい。地域文化を発信していく核としては、様々な可能性を持っていると思うのでそういうものを活かしていけたら。

地元を意識しつつ、全国とリンクさせる。

芦屋ブランドというのは全国的に有名。芦屋の認知度が高いのは芦屋の文化の層の厚さ、文化の密度の高さが影響しているのでは。芦屋が知られているということ利用する。

(会長) 美術博物館の使命・目的をどこかで考えておく必要があるのでは。これは、別立てでも、基本方針の冒頭でもよい。美術博物館の特徴をどうとらえるか。美術館と博物館としての役割をどう調和させるか。研究・調査の成果を市民と共有するための努力を惜しまないこと。

その他、ご意見ございましたら、どうぞ。

(川口委員) 運営基本方針に具体的な前書きほしい。基本方針につなげてほしい。今、芦屋は、産業としては洋菓子とかパンで有名になってきている。芦屋の今の現状で、良いイベントができないか。開館時間に、サマータイム・ウインタータイムも入れていくべきでは。平日の日中の人口が仕事等で減っているの、集客力アップということも考えると、ずらすことも必要なのでは。芦屋の住環境も取り入れて、模型の展示をしてみてもしてみても面白いのでは。市民の気持ちを捉えることが大事。今、芦屋検定が盛んに言われているが、美博検定もしてみてもは。戦略的広報、こちらから発信していく広報も必要ではないか。まず集客力をアップさせて、収入アップを目標にすることが大事ではないか。

(中田委員) 個人の美術グループの展示会があったら。子どもが体験できたり、触れるものができると思う。美術博物館への道順が分かり難い。市内で何回も行ったことがあるのに迷う。

(会長) 事務局の方でも簡単に説明をお願いします。

(事務局) <事務局案を説明>

今、各委員よりご意見・ご質問をいただきましたので、お答えしたいと思います。

- 具体の改善の話は、判断難しいが、具体の展示だけではなくて、色々工夫して幅広くやっているのでは。
- 入場料について、企画によっては、特別の料金をいただいている場合もある。ただ、いただいたからといって、コストペイすることは不可能に近い。管理運営にだいたい8,000万かかる。入場料収入は200万ほど。それ以外を入れても500万くらいで、費用を料金で回収することは難しい。
- プロムナードは、市が作ったのではなく、NPOの芦屋ミュージアム市民ネットが作ったもの。

- ・ 美術品を取得する基金は、2億円あったが、もうほとんど使っている。震災後、財政状況が悪化し、美術品を購入するための予算化は現時点では難しいと考えている。
- ・ 文化行政推進懇話会の提言については、芦屋市文化振興財団の解散を受けて、芦屋の文化行政に対して有識者から提言をいただくということになり懇話会が発足した。将来の文化行政のあり方について昨年3月に提言をいただき、それを受けて、(仮)文化基本条例を策定すべく、策定委員会を設けている。
- ・ 営業時間変更について、営業時間は条例上決まっている。変更するには議会で審議していただかなければならない。昼間なかなか一般の方が来られないというのは、課題の一つとしてある。
- ・ 美術博物館検定については、今後の検討課題とさせていただきたい。
- ・ 道が分かり難いことについては、看板は立てているが分かり難いのは承知している。

(会長) 芦屋ミュージアム・マネジメント職員の方、何かありましたら、どうぞ。

(マネジメント職員) 夜間開館は、一度やったが、思うほどお客様は来られなかった。色々やっているが、市民の皆さんとのコンセンサスが構築されていない。また、秋山委員のおっしゃる通り学校教育との連携も重要だと考えている。芦屋は南北が非常に長いので、山手の学校に来ていただく方法を教育委員会の方で考えてほしい。

(マネジメント職員) 根本的に、美術博物館の組織自体難しい。美術館と博物館は、重なっているが、それぞれ個別に違っている。運営基本方針は明確に美術館・博物館分けて書いてほしい。

(会長) 委員の皆さんの発言を基にして、およそ3つぐらいに分けて皆さんの意見をいただきたい。

- ① いわゆる基本方針。使命・役割。これはきちんと考える必要がある。
- ② ①をふまえて実際の管理運営方針はどうするのか。
- ③ 具体美術協会へのご意見が色々あるが、芦屋の誇るべきもの。市民の皆さんに(全国的な意味で)、どのような形で展示をし、明らかにしていくのがよいのか。
芦屋にある美術博物館としてどういう役割を果たすべきか。もう少し議論していただきたい。

(山内) やはり芦屋ゆかりの作家をベースにしてはと思う。

(会長) これは、大きな財産でもあるので、市民の皆さん、来館された方に、わか

りやすく、きちんと説明し、感動を与えるような展示を。

(藤原教育長) 美術博物館の基本中の基本には、「知の拠点」「アイデンティティー」「郷土愛」「素晴らしさ」「誇り」という言葉が出てくるのでは。それを具現化するためには、芦屋ゆかりの作家とモダニズムが入ってくるだろう。

「市民に潤いを」「市民が参加する」「今の芦屋をみせる」そういう、基本の基本を条文にあげるべきだろう。思い切って基本方針は、根本的にさわっても良いのでは。

(会長) この美術博物館のあるべき姿、あるいは、そこで美術博物館としては何を明らかにするのか。どういう役割を芦屋市民に対して果たしていくのか。

ご意見ありましたらどうぞ。

(秋山委員) 文化は将来に対しての投資だということを基本方針に入れてほしい。芦屋の魅力はなにものにも替え難い。

(林委員) 基本方針誰が見てくれるのか。是非、市民に見てもらいたい。読んでもらえるものを作りたい。

(成田委員) 基本方針を一般市民に見てほしいというが、一般的に「行政の文章は分かりにくい。読んでみようというような形にしてほしい。基本方針を作ったら、行動に移すことがとても大切。

(山内委員) 文化行政推進懇話会の提言にも、美術博物館を潰す方向では載っていない。どんなにお金がなくても、文化は大事にしなければならない。芦屋市の街づくりの重要な柱だ。この美術博物館を大事にしないと、という意識でないと。

(会長) 今まで、市民に必要だと思ってもらえていなかった。芦屋にそんなのが必要なのかという意識がどこかである。それをどういう形で掘り起こすか、また、近隣の大きな博物館と違う特徴を出さないといけない。学芸員の皆さんは苦労しているのでは。

(林委員) 美術であれ、歴史であれ、毎日活動しているグループがあり、指導者や沢山の生徒がいる。これまであまり声をかけていなかった人たちとタイアップすることを考えてほしい。相当な市民が連動してくる。小さな事から始めてはどうか。ボランティアの人材をおおいに活用してはどうか。

(橋本部長) 平成21年度の年間スケジュールに、芦屋ゆかりの作家ということで、今現役で芸術活動されている方の作品を紹介する。その後も市内で活躍されている方を紹介していきたい。親しみやすく、足をまず運んでもらうことをやっっていこうとしている。市民で活動されている方は沢山おられるので、是非順番に登場していただきたい。

(会長) それが、「知の拠点」になっていくということだ。

(中田委員) 子どもたちが、美術博物館に行けば、芦屋のことが全部分かるというようにしてほしい。

(戸田委員) 美術博物館の目的に「地域文化を発信していく」という、「発信」という言葉を入れてほしい。地元アーティスト・市民活動されている方の話があったが、「交流」という言葉も入れてほしい。この二つで芦屋ならではのものが必要なのだというところにつながっていく。

(会長) 基本の基本について伺った。次回までに事務局でまとめていただいて、できれば案も作ってほしい。案ができれば、どういう行動をしていけばよいのかも分かる。是非、市民の皆さんに役立ち、かつ、見てもらえるものにした。我々も努力していきたい。
事務局には、本日の具体的な意見もまとめてほしい。それを具体的な運営方針の中に盛り込んでいきたい。こういう進め方でいきたい。

ありがとうございました。